

本部だより

●第 31 号



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>



携帯サイト

●環礁・本部だより第 31 号 ●発行日：平成 27 年 2 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



写真展 平成26年8月30日～10月26日

マーシャル群島 遥かなり

主催／マーシャル方面遺族会



■靖国神社・遊就館で開催された本会写真展のポスターと展示品の一部

西暦2015年●未年



- 本部役員及び篤志会員
- 相談役 大給湛子
 - 会長 黒川 誠
 - 幹事 高林芳夫
 - 山口良二
 - 草場 寛
 - 晝間志津子
 - 岡野智津子
 - 井上賀雄
 - 監査役 内海淑子
 - 篤志会員 徳原徳子

平成27年度 慰霊祭・総会・直会のご案内

会長 黒川 誠

会員、会友の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り開催致します。

●慰霊祭

日 時 平成27年4月5日(日)
受 付 靖国神社・参集殿前。午前9時より開始。

受付で出席者名簿とご照合の上、参集殿にご集合ください。

慰霊祭 午前10時(ご本殿)

●定期総会

慰霊祭終了後、「靖国会館」前で記念撮影を行います。その後、同館2階「田安の間」にて開催します。

●直会(なわらい)

定期総会終了後、その場所を整え直して、そこが会場となります。閉会は午後3時頃を予定。

◆お願い

◇同封の出欠はがきには、欠席の方も各項目にご記入の上、2月末日までに本部に届くようにご投函ください。

◇本会への年会費(3000円)、寄付金、直会費(一名4500円)、玉串料(一名500円)は、同封の郵便振替用紙で2月末日までにお送りください。

会長辞任の挨拶

平成11年4月の総会で、佐藤前会長より会長職を引き継いでより本年で15年になりました。当時役員歴の長い方がいらつしやる中で何故という異論がありましたが、役員で最年長ということで推薦され、お引き受けしました。

どうしてか前任者からの申し送りは一切なく一からの出発でしたが、執行部の皆さんのご支援の下、新体制がスタート

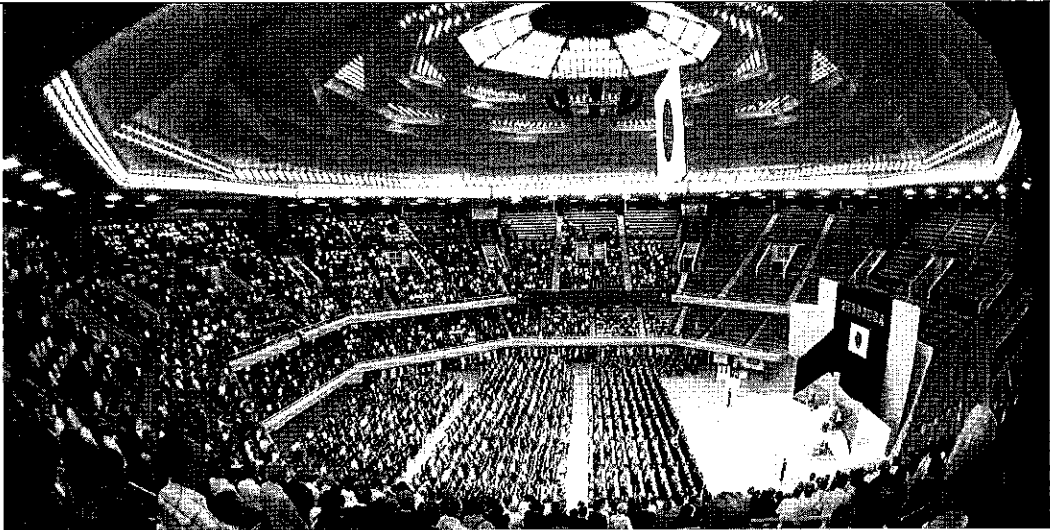
しました。

新執行部の活動は、「慰霊祭・定期総会・直会」の開催、「本部だより」の発行、「現地慰霊巡拝」実施等が滞りなく行われまされたことはご存知の通りですが、特筆すべきは次の四大事業です。

①平成14年、団体としては異例の「永代神楽祭」の申込みです。その命日祭を7月15日と定めて、靖国神社では毎年ご英霊3万5千柱のお御霊に奉慰顕彰が奏上されています。

②平成15年には、本会創立より60年を記念して、靖国神社に錦旗の幟一对をご奉納しました。

③平成24年には、長い間念願だった本会のホームページを立ち上げました。永代神楽祭の斎行と共に、これで本会が誇る遺族会の歴史を永遠に繋ぐことが出来ました。



全国戦没者追悼式会場風景（日本武道館）

④そして平成26年、遊就館特別展「大東亜戦争七十年展Ⅲ」関連で本会の写真展が開催されたことです。その展示内容の一部を本号で改めてご紹介しました。

本年4月5日の定期総会にて新会長が選出され、新執行部による活動が始動致します。会員・会友の皆様にはよろしくご協力の程、お願い申し上げます。

平成26年

全国戦没者追悼式に参列して

井上賀雄

晴天に恵まれ今年も暑い8月15日でした。私ども東京都の遺族は、係の誘導により11時頃、広い武道館の3階席所定の位置につきました。

国立東京芸術大学の管弦楽演奏とともに、式が肅然と始まりました。演奏曲目は、グリーク、ベートーベン、バッハなどの調べが随時、ハーモニオンよく、ゆるやかに流れ館内は荘厳な雰囲気になっていきます。

天皇皇后両陛下ご臨席、一同国歌斉唱。

安倍内閣総理大臣の式辞、正午の時報に合わせて、全員で国民とともに黙祷。天皇陛下がおことばを述べられましたことは、新聞やテレビ中継放送された通りです。

多くの来賓、遺族代表の追悼の辞があり、天皇皇后両陛下御退席の後、内閣総理大臣、来賓、各県遺族代表などによる献花終了後閉式。退出は1時過ぎになりました。

毎年、北海道から沖縄まで、全国各地から参集の約4500名の遺族関係者が全国戦没者追悼式に参列し、式典が盛大に執り行われ、お陰さまで心からなる祈りを捧げることができました。

いつものテレビ放映を見るとときは全く違った感じでした。近年は遺族の高齢化で参列者は減少が続いています。本年も同様で、父母は一人もおらず、妻は19人が参列したそうです。

こうして式典に出席できましたことは誠に有り難く、感謝の気持ちでいっぱいです。

マーシャル群島遥かなり

写真展●開催再録

マーシャル方面遺族会主催●写真展

大成功のいきさつ

笹幸恵 (ジャーナリスト)

「靖国神社・遊就館から本会の写真展開催の打診があった」と黒川誠会長から伺ったのは、今年（平成26年）の春先のことでした。遊就館では、現在、一階の通路の一部を展示スペースとして開放しています。そのスペースに、マーシャル方面遺族会を紹介する展示を行ってはどうかと、当時の遊就館展示部長からお話をいただいたのです。

このとき私は、もし写真展が開催されるのであれば、何らかの形でお手伝いできるのではないかと考えました。というのも、その半年ほど前、ソロモン諸島方面の戦友会である「全国ソロモン会」の

写真提供者は11名でしたが、黒川誠、吉田正明、草場マキ三は本冊子で既報のため、HPで掲載します。ご了承ください。

一員として、同じように写真展を手掛けていたからです。

しかし開催にあたっては、クリアしなければならぬ課題がありました。誰が陣頭指揮を取るのか、展示内容はどうか、写真を提供してくれる人はいるか、予算は、労力に比して展示期間が短い（当初は約1ヵ月間）ではないか等々。

お話を伺っているうちに、僥倖ながら自分が陣頭指揮を取らせていただけこうと考えるようになりました。そもそも私が2年前にクエゼリンを訪れることができたのは、マーシャル方面遺族会の存在があつてこそです。また黒川会長は今年で会長職を辞任される由、せめてものご恩返しのため写真展を成功させたいとの思いに至ったのです。

もちろん個人的な思いばかりではありません。遊就館は来館者も多く、会場費もかかりません。マーシャル方面遺族会の存在を広く知ってもらうにはまたとない機会です。しかも予定されていた開催期間中

父 井上梅二郎

海軍大佐

昭和 19 年 2 月 6 日
クエゼリン環礁ルオット島にて戦死
第 24 航空戦隊

▼写真下：右が母房子、その左後ろが父。
父の左が姉節子（山脇高女 2 年）、一番左
が私賀雄（三河台小学校 6 年）、その右が
弟武彦（三河台小学校 4 年生）、父の前が
妹尉子（三河台小学校 1 年生）



最後の家族写真



井上賀雄

（東京都）

■再録掲載は写真提供者名の五十音順です。

◆昭和 18 年 4 月、父が戦地に赴く直前に撮った家族全員の写真です。父井上梅二郎は、開戦の昭和 16 年 12 月 8 日、軍令部勤務（海軍中佐）だったと思います。当時、海軍省に近い六本木に住んでいました。私は小学校 4 年。ラジオから大本営発表の臨時ニュースを聴き、父が「とうとう始まってしまったか！」と冷静な雰囲気だったことを未だにはっきり覚えています。

◆軍令部当時、父はゼロ戦の性能アップを実現する海軍の担当窓口だったらしく、三菱航空機会社幹部との記念写真が今も残っています。宮崎駿監督作品「風立ちぬ」を観たとき、雑誌「丸」に掲載されていた柳田邦男氏の記事に、ゼロ戦の速度アップを強く要望する海軍の「井上中佐が・・・」と書いてあったことを思い出しました。

◆その父は、昭和 18 年、第 24 航空戦隊の一員として

国土防衛のため、当初北千島、その後ラバウルや南洋群島と転戦。最終はマーシャル諸島クエゼリン・ルオット（現ロイナムル）島における激烈な戦闘で玉砕しました。

◆同じルオット島で玉砕した参謀の奥様に伺った話ですが、当時の VOA（米軍短波放送）で、1944 年 2 月 6 日、日本軍司令と参謀の壮烈なる最後により、戦闘が終結したとの放送があったそうです。

◆遺骨はありませんでしたが、マーシャル方面遺族会のおかげで何度か現地慰霊に出向いた折、朽ち果てた無数の弾痕残るコンクリートの元司令部跡の霊砂を持ち帰りました。今後とも世界中が戦争を抑止する平和な世の中であって欲しいと切に願う次第です。

◆海軍大佐に昇進したこの遺影は、「最後の家族写真」から複製したものです。

叔父 常見登 陸軍兵長

昭和 19 年 2 月 6 日
マーシャル群島
クエゼリン島にて
戦死
工兵隊



兄に面会、街の写真館で

内海淑子 (東京都)



◆叔父常見登(写真左)は、昭和 17 年招集、満洲チチハル工兵隊に入隊。以下は戦死公報記載。

昭和 18 年 11 月 30 日海上機動第一旅団第二大隊二編入。南方派遣部隊転用の為。駆 3136 工兵隊。昭和 18 年 12 月 6 日チチハルを出発、同月 9 日満鮮国境通過、同月 14 日釜山港出帆、昭和 19 年 1 月 11 日クエゼリン島上陸。

◆写真の裏には叔父常見栄(登の兄)の文字で「昭和 16 年 12 月 19 日弟、登面会に際し、街に外出して写す」とあります。叔父常見登(左)は、応召す前に兄が所属する鉄道八聯隊が満州ハルピンに移動して来た折、新京(現在の長春)より面会に行ったときの写真です。

右の叔父常見栄は、鉄道八聯隊第二大隊所属で、階級は伍長でした。昭和 20 年 3 月 16 日フィリピン・ルソン島リサール洲マニラ東方山地「烈火台」で戦死しています。

◆昭和 49 年 2 月 6 日、マーシャル方面遺族会 30 年祭にあたり靖国神社にクエゼリン島慰霊碑の 2 分の 1 スケールの副碑を奉納、当時の宝物遺品館(現遊就館)に安置されました。現地の慰霊碑も副碑も私の父内海軍三が制作させて戴きました。下の写真は遊就館展示室 19 に置かれた副碑です。その前には常見登と栄叔父の写真が展示されており、この偶然のベストショットに驚いております。

義兄 岡野良之 海軍大尉

昭和 19 年 2 月 6 日
クエゼリン島にて玉碎
第 6 通信隊
享年 27 歳



寂しげな義母の姿が今も

岡野智津子

(神奈川県)



◆亡夫岡野正文の兄岡野良之は、現地東京軍令部へ海軍予備少尉として、昭和 18 年 1 月 20 日午後 1 時到着の召集令状を受けています。遠い昔、姑うのが私に聞かせてくれた義兄良之の数々の思い出、今私の微かな記憶として残っております。出征してたった一年足らず、遠い南方マーシャル諸島方面のクエゼリン島で玉碎となった義兄を懐かしみ、また心寂しげに語る亡き姑を、今は自分に置き換えております。限らない情愛を注いだ息子との別れをどんな思いで惜しんだことかと。寂しげな義母の姿が今も思い出されます。

◆写真は、出征の慌ただしい中、義父と鎌倉八幡宮へ揃って出征祈願に出かけた思い出の写真が残ってお

りました。義兄はクエゼリンから数葉の写真を送ってくれました。その写真には椰子の実の前に立て膝でポーズする姿が主人と全く同じで、今更ながら兄弟血筋を感じたり、今は懐かしい思い出です。

◆昭和 47 年 7 月 1 日発行のマーシャル方面遺族会の機関誌「環礁」第 16 号に義兄の消息がありました。佐賀県唐津市の馬場直人さん（現地での主計科の庶務と給与担当）からの寄稿文です。「林中尉、戸田内中尉、岡野中尉は学徒動員で招集せられました士官らしく、三人とも大変仲良く士官室に食事にお出でになっていましたのを記憶しています」と、集合写真と共に詳細にご報告載っております。

長女 小田原長造
特命少尉

昭和 19 年 2 月 6 日
クエゼリン島で戦死 6 通信隊
享年 34 歳

◆父は秋田県出身で、海軍に志願して入隊。研修機関「横須賀海兵団」に入学。後に飛行機の整備兵として空母「赤城」、「加賀」などに乗船。

▼▼横須賀海兵団員と撮った集合写真の裏には「愛する教え子たちと」とある。前列右から 3 人目（教官）。



写真裏面に

「愛する教え子たちと」とメモ



小田原利子

(埼玉県)



父 佐藤富五郎

海軍一等兵曹

昭和 20 年 4 月 26 日午前 4 時
ウオッセ島にて戦死



▲父に抱かれる一枚



▶奇跡的に戻った父の形見の日記帳

「日記書ケナイ。コレガ遺書」

佐藤勉
(宮城県)

◆父佐藤富五郎は、昭和 18 年に召集されました。翌年、私たち家族 5 人は、父の生まれ故郷に疎開し、そこで終戦を迎えました。

◆昭和 20 年 4 月にウオッセ島で戦死した父の形見の日記帳が、同年兵原田氏より 1 年後届きました。

◆死と対峙しながら家族への思いを寄せた凄惨な最後の 1 ページには「25 日全ク動ケズ苦シム、日記書ケナイ、之レガ遺書、昭和 20 年 4 月 25 日、最後カナ」と大きなふらふらとした字、おそらく満身の力で書いたものと思われます。

◆私は幼少の頃その日記を読んで、ひそかに涙する日々がたびたびありました。父の顔は写真でしか知りませんが、物心ついたところに、亡母や親戚から話聞いていました。

◆戦争に怒りを感じた中学生の私は、彼の地へ行く決心をしました。あれから 50 年、多くの方々のご支援で、三度、戦没者慰霊巡拝に参加することができました。かつての戦地に立ち「お父さん、お父さん」と呼びかけたとき、とめどもなく涙がこぼれました。ひとときの時間でしたが、感激と感動を覚えました。

大叔父 鈴木實

海軍上等兵曹

昭和 20 年 4 月 1 日
ウオツゼ島で自決
第 64 警備隊
享年 26 歳



◆大叔父が横須賀海兵団時代に面会に行つたときの写真。私の叔母(右)と従妹。このとき母はまだ幼く、この日の面会には行けなかつたようだ。◆母は「みのるさん」と呼ばずに「みによりさん」と呼んでいたそう。

楽園の島ウオツゼが地獄に

鈴木千春 (東京都)

◆大叔父・鈴木實は、17歳の時海軍に志願し、昭和12年6月1日横須賀海兵団に入隊した。卒業後は重巡洋艦「愛宕」に乗り込み、昭和13年5月に「上海特別陸戦隊」として1年間、危険な陸戦隊の任務に就いた。昭和14年に「愛宕」に戻り、昭和16年に「愛宕」は連合艦隊の旗艦となる。

◆その後、昭和17年4月に二号艦「武蔵」の機装員附きとなり、本来であれば「武蔵」測的手としてシブヤン海で戦つたであろう。

◆しかし、昭和18年6月、マーシャル方面の防備強化のため「第64警備隊」としてウオツゼ島配備となった。米軍の空襲が始まる11月までは「平和郷・楽園の島」だったのであろう。5か月間の「夢の時間」だったと思われる。ケゼリン玉砕後、「戦う」すべもなくなった。補給も途絶え「飢餓」の中、昭和20年4月に無念の自決を選ぶまで、あまりに短い25年の人生となった。◆私は、大叔父の「戦友」を探しあて、話を聞きたかったが、会えずじまいになった。

兄 中野幸男
陸軍兵長・勲八等功七級

昭和 19 年 2 月 6 日
スラウン島で戦死 6 通信隊
享年 23 歳



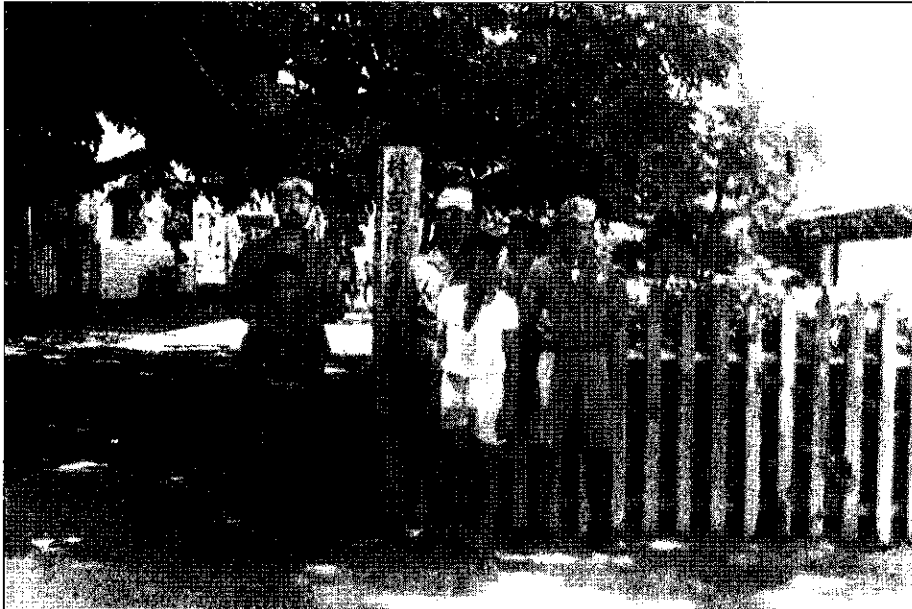
親孝行で優しい兄でした

星野綾子
(東京都)



◆兄は、昭和 18 年 1 月 15 日召集、はじめは浜松の高射砲隊員でしたが、間もなく中部第 7-2 花井隊に入隊し大陸へ（現中国かと）。その後中部太平洋方面のブラウン島に転進して 23 歳で戦死を致しました。
◆戦争は、勝者も敗者もお互いに痛みを受けます。絶対にこの地球に戦は止めなければいけません。写真は、戦死広報を受け、葬儀の後に映したものです。遺骨として帰って来たものは石ころと木札のみでした。親孝行でとても優しい兄でした。返す返すも残念です。上

の兄の写真は、父母が抱く葬儀の際の遺影から復元したものです。
◆写真は前列向かって右から姉と姉の娘、母、父、私、従姉。後列右よりご近所の親しくして下さったお三人、次は叔父叔母でございます。私は女学校の 2 年生でした。長い年月が経ったこと、しみじみと感ずます。でも癒えることはありません。
◆私たちが住んでいました所は、静岡県駿東郡小山町でございました。

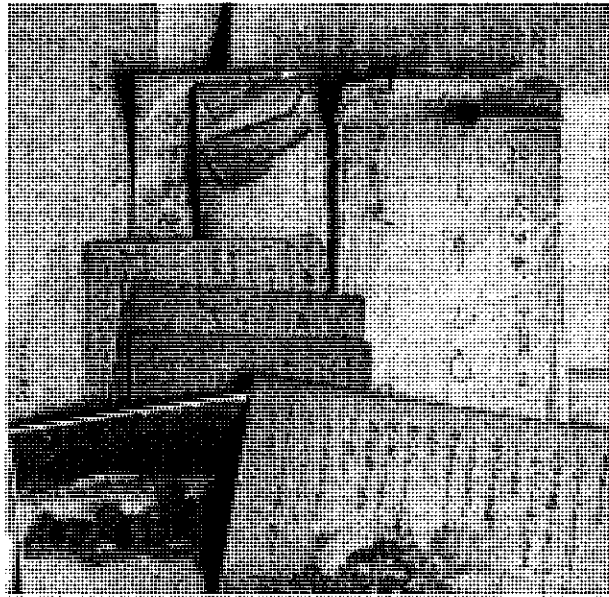


▲左端が父津久井秀夫。タラワであろうか。
門柱に「村上設営隊派遣○本部」と読める。

珊瑚礁からのたより

父 津久井秀夫
陸軍兵長・勲八等功七級

昭和18年11月25日
タラワで戦死
111設営隊



村田恵子 (千葉県)

◆変色した古い大きい封筒の中に軍事郵便と判を押したはがきや封書が入っていた。触ると角からボロボロと砕けてこぼれ落ちた。母は「日付や場所などは書いてはいけないけど、気をつけて読めば『天高く馬肥ゆるの候』とか二百十日、俺の誕生日、とかで想像がつくの」と得意そうに懐かしがっていた。

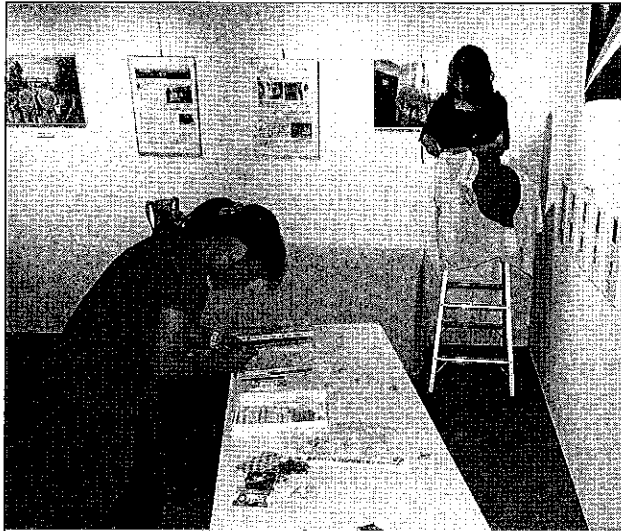
◆字もまだ読めない子供に何時かは読むと思ったのか、母の手紙に同封された私への手紙はカナ文字の優しい気持ちが詰まっている。若い父親の思いは充分に伝わった。

◆父津久井秀夫の本当の誕生日は1912年7月30日である。産湯をつかっているところに明治天皇崩御の

知らせが鳴り響いた。同日すぐに大正の御世になった。父は明治生まれと言われたくなかったようで、自分は大正生まれだと言っていたそうだ。

◆父の戦死の公報が入ったのは何時なのかと思っていたが、それはタラワ玉砕翌年の5月15日だったことが解った。呉海軍施設からの通知だったが、玉砕の正式な日付は、1943年11月25日とされている。

◆日本軍の戦没者数はマキン・タラワ他すべての合計では3万5千人余に上る。現地墓参から帰国した母は「余りにも美しい島で、美し過ぎて、何故ここで戦争をしなければならなかったのか悔しく空しかった」と言っていた。



▲展示作業をする笹幸恵さん（手前）と鈴木千春さん（奥）。

4ページから続きます◀

には秋季例大祭もあり、来館者が多く見込まれる時期でした。

そこで、甚だ力不足ではありませんが、担当者として実務を担わせていただきたいと申し出ました。ともにクエゼリンを訪れた鈴木千春さんにも声を掛けたところ、二つ返事で引き受けてくださり、誠に心強い限りでした。開催にあたっての事前打ち合わせが最初に行われたのは6月でした。黒川

会長、草場幹事、鈴木さん、私の4人で集まり、準備について話し合いました。最大の懸案事項は、展示内容です。写真だけを展示して「ハイ終わり」にはしたくありませんでした。見てくれる人はいるかもしれませんが、それだけでは印象に残らないと考えたのです。そこで、遺族の方々に思い出を綴ってもらおうパネルを「遺族コーナー」として会場のメインに据えることにしました。

このコーナーと慰霊碑建立の活動などは草場幹事にテキストをいただきました。また来場者の中には、マーシャル諸島を知らない人も多いのではないかと思います。これには稀代のアイデアウーマン鈴木千春さんにお願いました。もう一つのメインであるマーシャルの写真は私が撮影したものを使用しました。

「遊就館」の絶大なるバックアップに大感謝

またデザインやパネル化は、業者に依

頼すると莫大なお金がかかります。そのためデータは私が編集し、レイアウトをして版下を作成しました。印刷や実際のパネル化作業などは遊就館にご協力いただき、予算を極力抑えることができました。開催期間も遊就館のご好意により2カ月に延長することができました。

また黒川会長には都度、ご了解を得ながら、かつ大所高所からのアドバイスをいただきました。こうして何度か打ち合わせを重ね、足りない部分や進捗状況はメールで連絡を取り合い、少しずつ準備を進めていった次第です。

実際にパネルの搬入、展示作業を行ったのは8月26日です。鈴木さんと私、遊就館の課員数名で行う予定だったので、黒川会長や草場幹事も駆け付けてくださいました。会長自らパネルの取り付け作業をやってくださいったことは、今思い返しても畏れ多いことでした。

私自身、とりわけ印象に残っているのは、「遺族コーナー」にご協力くださった方々のエピソードの多彩さです。まさ

に十人十色。ある方は紙一重の運命を悲しみ、ある方は誇りに思うと綴り、ある方はお父様の日誌の一部を紹介され、ある方はその足跡を辿った末の無念を語っています。編集作業をしながら、思わず涙ぐむこともありました。

黒川会長のご理解と草場幹事、鈴木さんのご尽力がなければ写真展の実現と成功は叶いませんでした。このたびの写真展開催がマーシャル方面遺族会の PR に少しでも役立てたのなら、これに勝る喜びはありません。

「生きた証」を写真展で 鈴木千春（東京都）

昨年5月、笹幸恵さんより「写真展の制作を手伝って欲しい」と連絡を受け、私は即決でお引き受けしました。

マーシャル諸島の戦いは、ほとんど知られていません。日本から遠く離れた孤島で玉碎するまで将兵は戦い、また敵の上陸を免れた島では2年にも亘る饑餓地

獄があつた事実をこの写真展を機に、多くの方に知って欲しいと思いました。

島の位置、地図、環境、統治、部隊編成、熾烈な戦闘について写真とともに詳細なパネル展示をすれば、かの地で戦没された方々の「生きた（戦った）証」を揭示でき、御遺影パネルを通じて彼らが「もう一度生き、来場者に語りかけてくれる」と感じたからでした。

私は、亡くなった大叔父へ恩返しをしたい気持ちもあり、黒川会長、草場幹事、皆さんと打ち合わせをしながら制作しました。開催期間中、私は何度も会場に出向き、展示品の落下や歪みを正しながら来場者に「解説」をさせてもらいました。皆さん真剣に耳を傾けてくれました。

テーブルに配置した芳名帳は合計5冊に及び、900名近くのお名前が記入されています。ただ、ほとんどの方は記入せずに会場を出られています。神社に確認したところ、期間中遊就館への来場者は4万7千名余ということでした。次に感想ノートの一部をご紹介します。

- ◆マーシャルのことは初めて知りました。
 - ◆地図があつて解りやすかった。
 - ◆歴史をもっと学びたい（大学2年生）。
 - ◆大切な人と何時でも会える、話せる、この幸せを噛みしめたい。
 - ◆多くの犠牲、沢山の悲しみ、苦しみの上に今がある。感謝します。
 - ◆先人の遺志を受け継ぎ、よりよい日本を目指すべく頑張る。政治に関心を持ち、選挙に行つて投票する。
 - ◆今回の展示、本当によいものを見せていただき感激しました。
 - ◆改めてごはんを大切に食べようと思いました。
 - ◆初めての人にもよくわかる素晴らしい展示でした。現地に行つてみたくなりました。
 - ◆青春や家族、命を全て戦争に捧げなければならなかった時代があつた。そうさせたのは私達でもある。戦争についてもっと学ばなければと思った。
 - ◆「愛国心」先人の努力を無駄にしてはいけない。（自衛官）
 - ◆恥ずかしくない日本人になる。
- 今回、写真展のお手伝いができ、大叔父も微笑みながら見守ってくれているような気がいたしました。



**昭和18年9月～昭和19年における
守勢作戦**

①「中部太平洋方面作戦」展示品では、海軍少佐・音羽正彦命と海軍中将・山田道行命の遺影、遺品、書簡と葉書があり、大変興味深く拝見致しました。

海軍少佐・音羽正彦命書簡

御令妹・浅香宮瀧子女王（当会相談役・大給瀧子様）宛

変わりありませんか。私は今佐世保です。昨夜命を受け当港に於いて作戦準備に忙殺されています。近く任務により南支の某方面に向ふ筈です。が未だ行く先は確定と云ふわけではありませんが行動

は準備したいと思ひます。

陸兵揚陸、竝に援護をの命を受けて上海に行つて以来後は残留部隊として、脾肉之嘆やる方ない様でしたがここに我にも第三艦隊の指揮下に入り第一戦として働く事を得て我等の本快これに過ぐる物ありません。

この前のお便りに軍艦〇〇は出ても〇〇〇〇はないと云ふ事でしたが軍艦はどれも〇〇〇ですから其のおつもりで。

今年度の任務は長期間にわたる事は覚悟の上です。勿論陸戦隊の如く活躍するのは異なり特に海上封鎖など支那沿岸の大小船舶の交通遮断etcですが、

当分御会ひできませんね。

今年是一年中暖い方面です。又再び酷熱地方ですから、特にこれからは彼の海上は荒れて颱風の発生地でも相當の事はあると覚悟上ですよ。

まあニュースで南支那方面の事があるときは私もその方面で働いて居ると御考へ下さい。

手紙は今迄の如くで結効です。連絡船

等で受け取り得ると思ひます。

では失礼します。

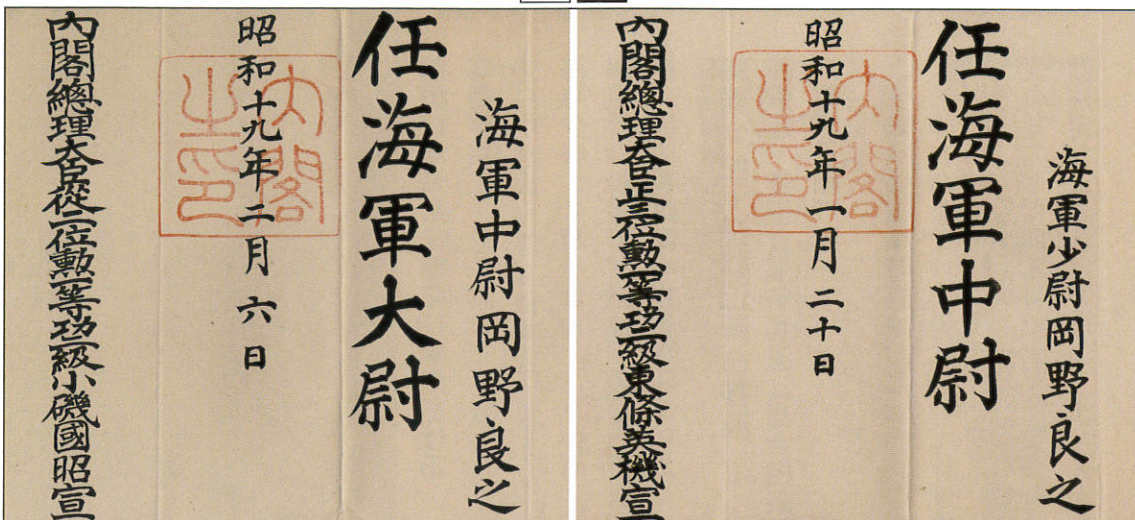
九月十五日

音羽

瀧子様

◆音羽正彦命は、浅香宮鳩彦王第二王子。願により臣籍に降下、音羽侯爵となる。

海軍に入り、海軍少尉に任官。赤城、山城、陸奥各分隊長、陸奥副砲長、横須賀鎮守府付等歴任。また貴族院議員としても活躍。第6根拠地隊参謀として内南洋クエゼリン島にて米兵第7師団と交戦し戦死された。



▲位記：日付と総理大臣名にご注目！ ▼写真展は遊就館の旧正面玄関ロビーで開催されました。



▶軍事郵便・絵葉書・陣中通信。

